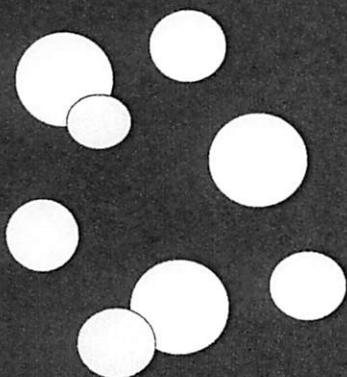




日本ビジネス実務学会

会報No. 68

2018年4月1日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局/〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1 札幌国際大学内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

体系的なビジネス実務研究

会長 椿 明美 (札幌国際大学短期大学部)



個人的なことで恐縮ですが、私の研究活動で全国の大学、短大へヒアリングに行っております。文科省のCOC+（知の拠点大学による地方創成推進事業）、AP（大学教育再生加速プログラム）、ブランディング（私立大学研究ブランディング）等の各事業に採択された大学・短大では、壮大な教育改革が進んでいることを実感しております。特に、各大学においてはアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの「三つの方針」に基づく体系的・組織的な教育の充実を図り、学修成果の可視化やPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの確立等に早くから着手されている様子がわかりました。

これをビジネス実務教育研究に重ねてみると、PBL、初年次、インターンシップ等の効果など授業改善に関わる研究は多くみられますが、カリキュラム・マネジメント、すなわち体系的観点からの研究は僅少であると見受けられます。授業改善、教育技法の効果はカリキュラムの中での位置づけを見なければ、一部の改善にとどまります。教育全体のなかでの意味づけをしっかりと押さえ、大学の「三つの方針」と各科目がどう絡んでいるのか、カリキュラムマップ等を通して常に確認が求められます。ビジネス実務教育においては、今の時代に求められるビジネス実務とは何か、という問いをもとに、体系的なビジネス実務教育という大きな枠組みからの再検討が求められています。

本学会では、現在、奨励研究の設置を目標にワーキングチームが活動を進めております。上記のような大テーマは学会の奨励研究に値するものとして是非取り組んでいただきたいと思います。

私のヒアリング調査では、先進的取り組みを行っている各大学が教育の本丸にいかに関心に取り組んでいるかが分かりました。急速な人口知能（AI）の技術革新、テレワークの進展等、ビジネス環境はこれまでにない変化を遂げています。その現実を私達は本当に掴んでいるのでしょうか。変化する環境の中で、現実を広く捉え、ビジネス活動を働く個人の側からアプローチしていく本学会独自の領域研究が、より活発に行われることが求められます。働き方改革が叫ばれている今、本学会の研究活動は時宜を得たミッションになると考えます。

Contents

会長あいさつ	1
委員会活動報告	2
ブロック研究会活動報告	
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
ブロック研究会研究発表一覧	6
ブロック研究会運営委員一覧	7
事務局からのお知らせ・新入会員紹介・第37回全国大会のご案内	8

委員会活動報告

総務企画委員会

委員長 大島 武 (東京工芸大学)

総務企画委員会では会員メーリングリストの整備に取り組み、より迅速な情報伝達体制を整えました。また、現行の正会員8,000円という年会費の額は1998年に6,000円から値上げして以来、据え置かれております。円滑な学会運営のために年会費を値上げすることについて、現在検討を進めております。

研究推進委員会

委員長 米本 倉基 (藤田保健衛生大学)

第36回2017年度全国大会(近畿ブロック担当)が6月10日・11日の両日、神戸大学六甲台第2キャンパス・農学部で開催されました。本年度の大会統一テーマ「ビジネス実務における専門教育を考える」の下、初日の午前中に、NHK連続テレビ小説『べっぴんさん』の实在モデルである「株式会社ファミリア」社長の岡崎忠彦氏による感動の講演会、午後は5会場に別れ、24演題の口頭発表と合わせ、昨年度より設置された12件のポスター発表も行われ大いに盛り上がりしました。続く2日目の午前には、京都女子大の西尾先生のコーディネートによる統一テーマに沿ったシンポジウムが行われ、最初に3件の基調報告を踏まえて、その後のグループに別れたバズ・セッションでは、ビジネス実務教育の将来を見据える多くの貴重な意見が集約され、実り多い全国大会を終えました。

編集委員会

委員長 大重 康雄 (鹿児島女子短期大学)

本委員会では学会誌「ビジネス実務論集(年刊)」の編集・発刊を担当しております。学会では2016年度に「ビジネス実務の研究目的と研究対象領域」の見直しを行うとともに「ビジネス実務論集執筆要領」の改訂を行い、会員による多様な研究成果をより発表しやすくするため、その環境の改善に務めて参りました。2017年度は「ビジネス実務論集規程」を見直し、これまで2種類(論文・研究ノート)だった投稿種別に「資料」を追加し3種類といたしました。投稿種別の拡大でこれまで以上に幅広い研究内容を発表できる場として「ビジネス実務論集」が活性化することを願っております。

2017年度8月締切時点での投稿申込件数は昨年度を5編上回る21編となりました。但し実際に投稿された件数は14編でした。論集規定に従い投稿原稿は編集委員会で査読者(1編につきそれぞれ主査・副査各1名を割当)を選定し、査読による事前審査を行いました。投稿14編中、審査を通過したのは9編でしたがいずれも修正を条件とする再審査となりました。通知後、取り下げがあり最終的に再審査を通過したのは6編(論文4編、研究ノート0編、資料2編)となりました。

広報委員会

委員長 和田 佳子 (札幌大谷大学)

本号より、会報は委員会手作りでの編集・発行を試みております。経費削減に繋がればという試みですので、お見苦しい点をご寛容にお願い申し上げます。今後は徐々にウェブ掲載に移行することも検討しておりますのでご理解のほどよろしくお願い申し上げます。(9月発行予定の全国大会詳細号は従来どおり、印刷会社に委託する予定です。)

会員メーリングリストが整備されたことから、ブロック研究会等のご案内は随時メールにてお送りしています。広報希望の案件がございましたら、広報委員会専用アドレス jsabs.prc@gmail.com にお送りください。ただし、掲載の可否は広報委員会が判断させていただきますのでご了承ください。

北海道ブロック

■2017年度ブロック研究会の動向

北海道ブロックの会員数は現在25名と、これまでの最小人数となっている。このため、会員にとってより魅力ある研究会を模索し、小回りのきく活動をしていきたいと考えている。現会員の専門分野の研究発表の場としてだけでなく、他校や他業界との交流や地域住民との懇談などを水平方向に、さらに卒業生や企業の方々、そして高校の教員など垂直方向へと幅を広げて活動していくことを視野に置いて、今後を考えていきたい。

また、例年12月に行なわれていた北海道ブロックの学生プレゼンテーションコンテストはこれまで13回を重ね、実績を積んできたが、近年、学生の発表スキルが上がってきたこと、発表の場が学内外に広がってきたこと、パワーポイントだけでなく、オンラインで動かすプレゼンテーションツールが多数開発され利用されていること等の理由から、今後は一歩進んだ企画を考えていくこととして今年度の開催は見送った。

2017年度の活動としては、7月に総会と、キャリアバンク株式会社代表取締役佐藤良雄氏の講演会を開催した。佐藤社長は大学時代から既に将来起業することを念頭に置き、お金がなくてできるビジネスを探し、「司法書士」や「税理士」など、様々な事務所に出向き、どんな仕事なのかを調べたそうである。その後、行政書士事務所を創業し、当時は他にはなかった訪問型のサービスを提供し、目標通り27歳の時には北海道で一番大きな事務所となったこと、さらに、社労士業務を通じて、企業が自社で給与や労務関連の業務処理を行う人材を欲していることに気づき、35歳の時にキャリアバンクを設立したことなど、常に課題解決型の起業をビジネスモデルとして行なってきたことを話された。参加者は実社会における果敢な課題解決の発想や手法について、知見を深めることができた。

また、2018年1月には北海商科大学を会場に、北海道ブロック研究会が開催され、3件の発表が行なわれた（発表者、発表タイトルは6頁に掲載）。（加藤 由紀子）



キャリアバンク社長講演



研究発表

関東・東北ブロック

1. 2017年度ブロック研究会の動向

2017年度はブロックにとって、変化を常態として受け留め、更に前進することを確かめる年になった。2017年9月に第2回公開講座を開催し、全国から会員非会員の皆さんに参加していただき好評を得ることができた。また、第45回ブロック研究会では、開催校や運営委員の業務負担軽減を目的にペットボトル配布とお弁当の廃止や基調講演者参加のバズセッションの実施など、今後の運営のあり方を検討するための新しい試みを取り入れてみた。学会活動はボランティアが基本だが、教員の学務繁多を考慮し、誰もが協力・参加しやすい形を今後も探り、会員の研究と交流につながるような活動を進めていきたい。

2. 2017年度の活動

(1) 第2回公開講座

2017年9月11日（月）、大妻女子大学にて参加者27名（非会員3）で開催。講師に多摩大学副学長の久恒啓一先生をお招きして「図で考えれば、世界が見える！」をテーマにワークショップ形式で実施した。9月中旬に入ってから平日にも関わらず、全国から参加された方々に「図解はグローバル言語である」という言葉が、心に残ったのではないだろうか。今回も、研究手法やスキルへの関心は高いと感じた。

(2) 総会

2018年2月24日（土）、大妻女子大学にて参加者30名（非会員2）で開催。年間の活動報告、会計の収支報告・予算が承認された。

(3) 第45回ブロック研究会

2つの助成研究である共同研究の発表と、午後から野村総合研究所主任コンサルタントの岸浩稔氏による「AI時代の働き方と多様性」をテーマに基調講演が行われた。その後、講演者が5つのグループ席を回りながら行ったバズセッションは、今、最も話題のAIを理解するための意見交換の場になり、有意義な試みとなった。また、懇親会（参加者18名）には、講演者の岸氏にもご参加いただけたので、打ち解けた中に大変充実した研究会を終了することができた。

(4) ブロック運営委員会

2017年7月29日（土）大妻女子大学 運営委員13名 2016年度報告 公開講座準備 第45回計画
2017年11月26日（日）同大 運営委員12名 準備進捗

3. ブロック会報

2018年3月末日を目途に会報をHPに掲載する予定である。

（高橋 真知子）

岸浩稔氏の講演



バズセッションの様子

中部ブロック

■ 2017年度活動報告

1. ブロック研究会の開催

2018年1月6日・7日の2日間、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学において、今年度のブロック研究会が開催された。20名超の会員等、プレゼンテーション・コンテスト出場学生8名の参加があり、大変賑わいのある研究会となった。初日には、愛知県立南陽高等学校教諭の渡辺力樹氏、株式会社ツシマリバイブ代表取締役の阿比留大吉氏をお招きして、「ビジネス実務におけるプレゼンテーション教育・学習法—企業／起業と商業教育の視点から—」というテーマでパネルディスカッションを開催した。2日目には、九州・沖縄ブロックリーダーである北九州市立大学教授の見館好隆先生をお招きして、「地域・産学連携事業の実践とその成功要因」というテーマで講演をしていただいた。どちらも研究会を充実させるものであり、研究発表も「中部ブロック助成共同研究報告」を含め、2日間・7件が行われて活発な質疑応答が交わされた。

2. 総会

2018年1月6日、ブロック研究会の最初に総会が開催された。複数回実施された運営委員会報告、平成28年度の会計報告、次年度活動方針等が審議され、満場一致で承認された。

3. 学生プレゼンテーション・コンテストの開催

初日に開催された「学生プレゼンテーション・コンテスト」では、最優秀賞を宮永愛弓さん（金城大学短期大学部）が受賞し、優秀賞には堂ヶ平夏奈さん（金城大学短期大学部）と宮川ゆずさん（岡崎女子短期大学）の2名が、そして奨励賞には天木舞さん（愛知東邦大学）、岩田彩華（愛知東邦大学）さん、糸田好穂さん（岡崎女子短期大学）、佐伯有里恵さん（富山短期大学）、水野美樹さん（富山短期大学）の6名が選ばれた。

4. 中部ブロック会報第32号の発行

2018年3月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだ「中部ブロック会報第32号」を発行し会員に配布した。
(手嶋 慎介)

パネルディスカッション 渡辺氏



学生プレゼンコンテスト



近畿ブロック

■ 2017年度活動報告

第54回近畿ブロック研究会が2018年2月18日（日）に西宮市大学交流センターで開催され、参加者は非会員4名を含む48名でした。今回の研究会は、総会、助成研究最終・中間報告、研究発表、学生によるプレゼンテーション大会、研修会という次第で進められました。

1. 総会

ブロックリーダーより、2016年度活動報告および収支報告があり、さらに2017年度の事業進捗状況および決算予測、2018年度の事業計画と予算案が示されました。以上について、参加の全会員の承認を得ました。

2. 助成研究最終・中間報告

2016年度よりの助成研究の最終報告が1件、2017年度より始めた中間報告が1件ありました。参加者からの質疑応答も行われました。

3. 研究発表

計3件の発表が行われ、質疑応答も活発に行われました。

4. 学生によるプレゼンテーション大会

今回は、5組9名の学生が「学生生活の中で、個人またはグループで主体的に取り組んだこと」を共通テーマに、ボランティア活動、ゼミナール、インターンシップ等で学んだことを発表しました。評価は会場全員が「内容」「技術」「質疑応答」等の項目に沿って採点しました。最優秀賞を1組（1名）、優秀賞を1組、奨励賞を3組にそれぞれ授与しました。

5. 研修会

中村健壽先生（静岡県立大学名誉教授、日本医療秘書実務学会名誉会長）をお招きし、「論文作成法の基礎を学ぶ～実践を論文にする～」をテーマにご講演いただきました。「教室は論文テーマの宝の山」、「論文の構成・論文独特の表記」、査読にとおる論文、落ちる論文の違い」等といったトピックについて、たいへん分かりやすくお話いただきました。この研修会を目当てに今回の研究会に参加した方も散見され、今後のブロック研究会にも関心を持っていただく良い機会になったと思われます。また、中村先生が以前に関東・東北ブロックで行った研修会では、その受講生が当学会に投稿した論文が採録された実績もあり、今後の成果が期待されます。
(坂本 理郎)

学生プレゼンコンテスト



中村先生講演

中国・四国ブロック

1. ブロック研究会の動向

例年、ブロック研究会で口頭発表する会員は5人（5グループ）前後であり、それぞれの視点からの絞ったテーマで着実に研究を深めている。テーマとして扱われることが多いのは、「地域ボランティア」、「実務教育」、「キャリアアダプタビリティ」などである。今回、実務者として会計事務所の方からの口頭発表参加もあった。

2. 2017年の活動

2017年8月26日、27日の2日間、松山東雲学園・大街道キャンパスにおいて、第34回中国四国ブロック研究会を開催した。今回、ブロックリーダー・佃昌道氏による『中国・四国ブロックの歩みと今後』と題する講演の後、シンポジウムとして会員同士が「ビジネス実務教育とカリキュラム」についてお互い意見を出し合い、本学会の存在意義という原点に立ち戻って考えを深めた。

3. 総会

ブロックリーダーによる前年度（2016年度）の事業報告・会計報告が行われた。続いて新年度（2017年度）の事業計画と予算案が示され、承認された。今後の展望として、実務者教育への参入という形で、その道のベテランを招いての招待講演が可能かどうか、話し合われた。

4. 学生プレゼンテーション大会

今回で12回を迎える学生プレゼンテーション大会は6グループの参加で大いに盛り上がり、発表の内容的な質、プレゼンテクニック共に非常に高いクオリティを達成している。全編英語によるプレゼンも2件あった。

質疑応答の時間も十分に確保したため、聴衆として教員の側からの質問や、他大学の学生からの質問も多く出され、それに応答する発表者の学生も大いに刺激を受け、学びを深めた。発表者グループは次の通り：①高市さつきさん・門田愛央さん（松山東雲短期大学2年）・田中瑠莉さん・松岡瑛奈さん（松山東雲女子大学2年）；②吉金愛美さん・岡佑里佳さん（松山東雲女子大学3年）・川中希望さん・相原愛永さん（松山東雲女子大学2年）；③宇田周平さん（徳島文理大学香川薬学部薬学科2年）；④遠藤壮一郎さん（徳島文理大学短期大学部言語コミュニケーション学科1年）；⑤景山麻友美さん（中国学園大学国際教養学部3年）；⑥角永友菜さん（中国学園大学国際教養学部3年）

5. 運営委員会

中国四国ブロックにおける2017年度の役割分担について、ブロックリーダーを中心に話し合い、2018年6月に徳島市で開催が予定されている第37回全国大会についても、協力体制を具体的に話し合った。（堀口 誠信）



研究発表

学生プレゼンコンテスト



九州・沖縄ブロック

■ブロック活動報告

第60回九州・沖縄ブロック研究会は2018年2月17日（土）13時より、福岡工業大学短期大学部にて開催された。他ブロックの会員3名や非会員6名含めて合計27名の参加となり、近年最大の参加数となった。なお、研究発表者は4名だった（詳細は後述）。

参加者が多かった理由は、研究発表後に開催した講演＆ワークショップだったと考える。テーマは「授業や地域活動を題材にした研究論文の書き方」。講師は京都外国語大学外国語学部教授の村上正行氏。氏は教育工学、大学教育学を専門とし、日本教育工学会などで論文の書き方や研究計画の立て方のFD研修講師を担当している。学会員のみならず、非会員も引き付けるテーマ及び人選だったことが推察される。

講演ではまず、大学教育を対象とした研究の問題点について述べ、論文等に求められる基本的条件（新規性・信頼性・有効性）の説明があった。次に、研究計画の立て方（目的・特徴・方法・分析・考察）について、一つ一つ丁寧な解説があった。次に、論文として採録されない2つのケースの説明があった。一つは、実践の内容がよく分からないこと。なぜならば査読は推測して読むことはできないのだからと指摘された。もう一つは推察が不十分なこと。なぜならば査読は論文の添削をするわけではないからであると指摘された。

そして、本講演を受けてのワークショップが開催された。まず以下の項目が記載されたワークシートを記入する個人ワークを行った。次にその内容をグループで発表して、互いにアドバイスをしあうワークを行った。仕上げとして各グループから1件ずつ発表していただき、全体共有を行い、最後に質疑応答を行った。

1. 研究対象（教育実践・目的、内容・テーマ、組織、など）
2. 研究目的（何が明らかになればいいのか）
3. 方法（どのようにして、どんなデータを取得するのか）
4. 分析（どのような方法で分析するのか）
5. 考察（どんな結果・知見を得ようとしているのか）
6. 研究を行う上での課題・問題点

結果、参加者全員の満足度を体感できる、素晴らしい講演＆ワークショップとなった。その後の懇親会にも村上先生にご参加いただき、会員それぞれが村上先生から個別にアドバイスを頂いたようだった。引き続き本ブロックでは、新規会員獲得を視野に、学会員が望む研究会を企画・実施していきたい。（見館 好隆）



研究会



ワークショップの様子

ブロック研究会研究発表一覧

〈発表タイトル、発表者氏名（所属）/研究領域〉

■北海道ブロック

1. 「キャリア教育としての産学連携「社会人講座」の実践に関する考察」原一将（札幌国際大学）、関憲治（札幌国際大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
2. 「ジェネリック・スキルを前提とした日本語表現教育の改善」武井昭也（札幌国際大学）/【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討
3. 「ビジネス環境は、どのように評価されているのか 世界経済フォーラム旅行・観光競争力レポートを事例として」加藤由紀子（北海商科大学）/【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務

■関東・東北ブロック

研究助成による共同研究

1. 「金融リテラシー・プログラミング教育の研究—近年の実学教育志向を考える—」長谷川美千留（八戸学院大学）、佐藤美津子（クレオ・ジャパン）、齋藤裕美（多摩大学）、田中敬子（コムネット）/【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討
2. 「助成のキャリア形成と企業の取り組み」杉本あゆみ（滋賀文教短期大学）、想田ひろえ（元住友重機械工業株式会社勤務）/【2】ビジネス実務研究 2) 人材育成と能力開発

■中部ブロック

1. 『ビジネス実務におけるプレゼンテーション教育・学習法の再検討—他者評価を重視したプレゼンテーション取り組み事例—』山本恭子（名古屋学芸大学）、上野真由美（名古屋女子大学短期大学部）、加納輝尚（富山短期大学）、手嶋慎介（愛知東邦大学）/【1】ビジネス実務教育 2) ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発
2. 『オランダに学ぶ働き方改革』米本倉基（藤田保健衛生大学）、坂田裕介（藤田保健衛生大学）/【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務

3. 『書画カメラを活用したアクティブラーニングの試み—資格試験における問題演習を中心に—』河合晋（岡崎女子短期大学）、黒野伸子（岡崎女子短期大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
4. 『医療事務職に必要な社会人基礎力—先行研究レビューから—』黒野伸子（岡崎女子短期大学）、河合晋（岡崎女子短期大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
5. 『サービスデザイン手法による地域ポータルサイトの再構築』町田由徳（岡崎女子短期大学）/【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
6. 『医療4職種のキャリア・アンカー比較によるこれからの能力開発』坂田裕介（藤田保健衛生大学）、米本倉基（藤田保健衛生大学）/【2】ビジネス実務研究 2) 人材育成と能力開発
7. 『学生プロジェクトにおける社会的認知度向上の仕組み』奥村実樹（金沢星稜大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究

■近畿ブロック

1. 「評価されるプレゼンター育成のための教育方法の工夫—演技指導を取り入れることによる効果の測定—」（ブロック助成研究最終報告）瀬口昌生、酒井健（大手前大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
2. 「市民大学への学生PBL参加の教育的効用と課題」（ブロック助成研究中間報告）大田住吉、水野武（摂南大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
3. 「低学年次のキャリアデザインの教育効果」足塚智志（京都華頂大学）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
4. 「近畿の大学・短期大学における秘書士資格・秘書検定の指導状況」樋口勝一（追手門学院大学）、仁平征次（仁平ビジネス実務教育研究所）/【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
5. 「医療事務職に求められる能力と職場の現状—医療事務職員へのアンケート調査から—」河合真知（神戸大学大学院国際文化科学研究科）/【2】ビジネス実務の調査研究 2) ビジネス環境とビジネス実務

■中国・四国ブロック

1. 「学生の地域ボランティアの動機と大学授業：トップリダー講義を通じて」佐々木公之（中国学園大学） / 【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討
2. 「学生通訳ボランティアと日本語の語彙について」堀口誠信（徳島文理大学短期大学部） / 【1】ビジネス実務教育 2) ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発
3. 「同族企業における経営倫理の必要性」森本光（税理士法人越智会計事務所） / 【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
4. 「キャリア・アダプタビリティとビジネス実務教育」桐木陽子（松山東雲短期大学） / 【2】ビジネス実務研究 2) 人材育成と能力開発
5. 「地方短期大学における実務教育」佃昌道（高松大学） / 【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討

■九州・沖縄ブロック

1. 「氾濫社会に於けるビジネス実務教育の一考察（その4）現状と課題（1）」北原康司（釜山女子大学） / 【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
2. 「新興国“水”ビジネス戦略ー日本企業の現状と課題について」江崎康弘（長崎県立大学） / 【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務
3. 「インターンシップ事前学習としてのビジネスマナー講義の意義を改めて問い直す」井上奈美子（福岡県立大学） / 【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究
4. 「高等学校インターンシップがキャリア形成や学び職業選択などにもたらす効果とその規定要因」見館好隆（北九州市立大学） / 【1】ビジネス実務教育 3) 教育方法の研究

2017・2018年度 ブロック研究会運営委員一覧

■北海道ブロック

- ◎加藤由紀子（北海商科大学）
- 千葉里美（札幌国際大学）
- 和田 早代（札幌国際大学）
- 高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
- 官尾昌子（北海道武蔵女子短期大学）
- 森谷一経（北海道文教大学）
- 神野由香里（H29 年11月15日迄）
- 田澤早苗（株式会社ニトリ）
- 南聡子（札幌放送芸術専門学校）

■関東・東北ブロック

- ◎宮田篤（青森中央短期大学）
- 安齋徹（群馬県立女子大学）
- 齋藤裕美（多摩大学）
- 澤田裕美（新渡戸文化短期大学）
- 大島武（東京工芸大学）
- 大塚映（東京経営短期大学）
- 上岡史郎（目白大学短期大学部）
- 木村信綱（福島学院大学短期大学部）
- 金世煥（いわき明星大学）
- 小松由美（福島学院大学）
- 周藤亜矢子（茨城女子短期大学）
- 坪井明彦（高崎経済大学）
- 長谷川美千留（八戸学院大学）
- ※2017年度迄
- 高橋真知子（名古屋経営短期大学）
- 飯塚順一（湘北短期大学）
- 岡田小夜子（大妻女子大学短期大学部）
- 畠田幸恵（産業能率大学）

■中部ブロック

- ◎手嶋慎介（愛知東邦大学）
- 加納輝尚（富山短期大学）
- 河合晋（岡崎女子短期大学）
- 西川三恵子（九州共立大学）
- 若月博延（金城大学短期大学部）
- 奥村実樹（金沢星稜大学）
- 岡野大輔（金城大学）
- 中川雅人（中部学院大学）

■近畿ブロック

- ◎坂本理郎（大手前大学）
- 樋口勝一（追手門学院大学）
- 掛谷純子（京都女子大学）
- 加藤晴美（ブール学院大学短期大学部）
- 高松直紀（大阪樟蔭女子大学）
- 西尾久美子（京都女子大学）
- 仁平直（神戸国際大学附属高等学校）
- 野坂純子（大手前短期大学）
- 福井愛美（神戸女子短期大学）
- 福井就（大手前短期大学）
- 水野武（摂南大学）

■中国・四国ブロック

- ◎佃昌道（高松短期大学）
- 金岡敬子（四天王寺大学）
- 松永満佐子（四国大学短期大学部）
- 堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
- 立花智香（安田女子短期大学）
- 水口文吾（高松短期大学）

■九州・沖縄ブロック

- ◎見館好隆（北九州市立大学）
- 江藤智佐子（久留米大学）
- 藤村やよい（久留米信愛女学院短期大学）
- 井上奈美子（福岡県立大学）
- 天野緑郎（MC&フューチャーコンサルティング）
- 石橋慶一（福岡工業大学短期大学部）
- 大重康雄（鹿児島女子短期大学）
- 有馬恵子（鹿児島女子短期大学）

※◎はリーダー、○はサブリーダー

事務局からのお知らせ

■ビジネス実務論集No.37について

2019年3月発行予定のビジネス実務論集No. 37の投稿募集は以下のスケジュールで予定しております。みなさまの投稿をお待ちしております。投稿申込期限を過ぎますと受付できませんのでご注意ください。ご質問等は、学会事務局までメールにてお問い合わせください。

▶2018年7月上旬 学会HP等にて投稿募集のお知らせ

▶2018年8月上旬 投稿申し込み締切

■転居・所属先変更等ご連絡のお願い

当学会から発行物等をお送りする際には、宅配業者を利用することもあります。そのため、郵便局に転居届をご提出いただいても、宛先不明で学会事務局へ返送される場合があります。会員のみなさまに発行物をスムーズにお届けするためにも、転居もしくは所属先変更の際には事務局あてにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、5月初旬頃に年会費の請求書をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

【訃報】本学会顧問 佐藤啓子先生におかれましては、去る平成30年2月24日、ご逝去されました（享年78歳）。会員の皆様にお知らせするとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新入会員紹介

・正会員

（敬称略）

氏名	所 属	ブロック	氏名	所 属	ブロック
田中 裕子	福島学院大学短期大学部	関東・東北	前川 明	流通科学大学	近 畿
加藤 博	金城大学短期大学部	中 部	水口 錠二	（一社）日本医療報酬調査会	近 畿
高木 綾子	富山短期大学	中 部	山岡 亮太		近 畿
北村 雅昭	大手前短期大学	近 畿	江崎 康弘	長崎県立大学	九州・沖縄

・学生会員

高崎 美佐	東京大学大学院	関東・東北	田中 秀典	愛国学園大学	関東・東北
-------	---------	-------	-------	--------	-------

第37回全国大会（四国・徳島）のご案内

- 開催日時：2018（平成30）年6月9日（土）・10日（日）
- 会場：徳島文理大学徳島キャンパス（徳島市山城町西浜傍180）
- 大会統一テーマ：「地域・産業界と協働するビジネス実務教育」
- 大会事務局：徳島文理大学徳島キャンパス
- お問い合わせ先：E-mail/jsabs20180609@gmail.com（堀口誠信宛）
※大会案内第2号通信は4月6日（金）頃発送予定です。
お申し込みはお早めをお願いいたします。



日本ビジネス実務学会会報No.68

発行日：2018年4月1日

編 集：広報委員会 和田佳子（委員長）・高橋真知子・加藤由紀子・樋口勝一・堀口誠信・見館好隆

連絡先：日本ビジネス実務学会事務局（札幌国際大学内）電話：011-807-7176/E-mail:business.jitumu@gmail.com

広報委員会専用アドレス:jsabs.prc@gmail.com